

週末アポとり対話テスト【生徒用・課題カード】

Class _____ No. _____ Name _____

🎯 ゴール: 予定を伝え合い、2人の空いている時間を見つけて約束ができる

場面 ペアで週末の予定表(それぞれ違う)を持っています。相手を映画にさそい、2人とも行ける時間を見つけよう。

①予定を聞く: What are you going to do on Saturday? ②自分の予定を言う: I'm going to ~. ③さそう: Let's see a movie! How about Sunday afternoon? ④決める: OK! I'll meet you at two.

ゴール: 2人の予定表で空いている時間帯を英語のやり取りだけで特定できたら達成。

準備 テストまでにすること(授業1回)

練習用予定表でリハーサル1回(本番は別の予定表を配布=暗記では解けない)。will(その場の決定)とbe going to(決まっている予定)の使い分けを確認。

本番 時間: ペアで2分 / 評価: 4観点×3段階(12点)

達成	相手に伝わったか・目的をはたせたか(いちばん大事！)
正確さ	今回の言語材料が正しく使えたか
流暢さ	止まらずに続けられたか(完ぺきでなくてOK、リカバリーも実力)
態度・やり取り	あいづち・聞き返し・相手への質問があったか

✓ 聞き返し(Pardon? / One more time, please.)は減点ではなく加点。本物の会話の技だから、遠りよく使おう。

ねらい このテストは何を・なぜ測るのか

測る力	情報の異なる相手と交渉し、合意(約束)に到達する力(タスク達成型のやり取り)
なぜ必要か	中2で学ぶ未来表現は「予定の伝え合い」で初めて道具になる。答えが1つでない情報ギャップ型は、暗記対策が不可能で、英語を使って現実の問題(空き時間探し)を解決する経験そのものが評価になる。

評価 ルーブリック(B列＝評価規準「おおむね満足の姿」。採点前に一読してから始める)

達成	A(3点) 正しい空き時間で約束が成立し、確認の一言まであった	B(2点)＝評価規準 約束が成立した(多少の誘導があっても英語で完結)	C(1点) 約束が決まらない・日本語頼み
正確さ	A(3点) be going to / will の使い分けが正しい	B(2点)＝評価規準 誤りはあるが予定は通じる	C(1点) 未来の形が使えない
流暢さ	A(3点) やり取りが自然に往復	B(2点)＝評価規準 間はあるが続く	C(1点) 停止
態度	A(3点) 確認(Sunday, right?)や代案(How about ~?)が出た	B(2点)＝評価規準 相手の予定を聞いて応じた	C(1点) 一方的

✓ C→Bの手立て: 条件を1つ減らして再挑戦の機会を(例: メモを見てよい・時間を短く)。再テストはB上限にせず、できた姿をそのまま評価する

運用 当日の流れ(2コマ or 一斉+巡回)

1	ルーブリック(このページ)のB列を一読してから開始——「おおむね満足の姿」を採点の物差しとして頭に置く
2	課題カード(1ページ目)の場面と評価観点を全体で確認(2分)。聞き返しは加点、と必ず伝える
3	順番票にしたがって実施(ペアで2分)。採点はその場で記録シートに○をつけるだけ
4	待ち時間の生徒には観察メモ(よかった表現を1つ書く)または自習課題を指定
5	全員終了後、よかった例を2～3、名前を挙げてほめて締める(次回への空気づくり)

☆運用のコツ 予定表を変えるだけで何度でも使える情報ギャップ型。空き時間を2か所仕込み、片方を「部活とギリギリ重なる」設定にすると、確認の一言(What time does it end?)が自然に生まれます。

記録

その場で○をつけるだけ(A=3 B=2 C=1)

名前	達成	正確さ	流暢さ	態度	計	メモ(次への一言)
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	

✓ 印刷して名簿順に並べておくと、テスト中の記入が3秒で済みます。「メモ」は返却時のフィードバックの種——1語でOK。